

平成29年3月期 中間決算について

株式会社AIRDOは、本日11月28日(月)、平成29年3月期(平成28年4月1日～平成29年3月31日)中間決算をとりまとめました。詳細につきましては、別添の「平成29年3月期 中間決算短信(非連結)」をご覧ください。

1. 平成29年3月中間期(平成28年4月1日～平成28年9月30日)の業績

(1)概況及び経営成績

当中間会計期間におけるわが国経済は、設備投資や企業収益の改善の足踏み等、このところ一部に弱さもみられるものの、個人消費は総じて底堅い動きを示す等、緩やかな回復基調が続きました。北海道経済も、需要・生産動向等の一部に弱い動きがみられたものの、緩やかな持ち直しの動きが続きました。

国内航空業界においては、原油価格が低水準での推移から上昇基調に転じる動きがみられ、その動向に一層注視していく必要があります。また、当社は連続して北海道に接近・上陸した台風等による旅行需要減退の影響を受けたほか、競合他社との競争も激しさを増しています。

このような状況の下、当社は「2015～2018 年度中期経営戦略」にビジョンとして掲げた、「『北海道の翼』にふさわしい“オンリーワン”のエアライン」を目指し、安全運航の堅持(創業以来の「事故・重大インシデントゼロ」の継続)に努めるとともに、顧客満足度の向上を図るべく「北海道」にこだわった各種施策に取り組んでまいりました。

営業面においては、需要に応じた柔軟な運賃設定のもと、法人向けインターネット予約システム「AIRDO Biz」による法人販売の強化、航空券と宿泊施設・その他オプションを自由に組み合わせることができる旅行商品「AIRDO ダイナミックパッケージ」の展開等を進めたことに加え、「札幌―東京」線の利便性を高めるべく、週末を中心とする定期的な深夜便運航を実施する等、お客様の多様なニーズにお応えしてまいりました。また、就航各地の広告宣伝を積極的に展開し、特に札幌地区においては、札幌ドームに企業ロゴの掲出を始める等、多種多様な媒体を通じた情報発信を展開し、「北海道の翼」としての認知度向上に努めました。

機内サービス「DO Sky Marché」(ドウ スカイマルシェ)では、北海道にこだわったメニュー・商品を順次ご提供し、独自サービスによる差別化に取り組みました。軽食販売の第2弾として「パスタ入り 北海道産とうきびチャウダー」をご提供、北海道限定ビールの割引販売「HAPPY HOUR」も大変好評をいただきました。

当中間会計期間における営業収入は、平成27年10月に開設した3路線の効果等により、コードシェアによる座席販売分を含め、26,440百万円(前年同期比7.6%増)となりました。

費用面では、原油価格の下落の影響があったものの生産規模の拡大により事業費が増加し、21,181百万円(前年同期比6.0%増)となりました。販売費及び一般管理費は、営業関連費用の増加等により1,972百万円(前年同期比15.4%増)となったことで、営業費用は23,154百万円(前年同期比6.8%増)となりました。この結果、営業利益は3,285百万円(前年同期比13.6%増)となりました。

営業外損益において、営業外費用が増加したこと等により、経常利益は2,859百万円(前年同期比7.8%増)となり、中間純利益は1,913百万円(前年同期比0.3%増)となりました。

【経営成績】	前中間会計期間	当中間会計期間	増 減	増減率(%)
営業収入 (百万円)	24,577	26,440	+1,863	+7.6
営業費用 (百万円)	21,685	23,154	+1,468	+6.8
営業利益 (百万円)	2,891	3,285	+394	+13.6
営業利益率 (%)	11.8	12.4	+0.6Pt	—
経常利益 (百万円)	2,652	2,859	+207	+7.8
中間純利益 (百万円)	1,907	1,913	+5	+0.3

(2) 運航実績、輸送実績

機材においては、7月29日より季節によって多彩な表情を見せる“北海道の四季”を機体全体に表現した特別塗装機「ベア・ドウ北海道 JET」を導入し、運航を開始しました。また、6月からは旭川空港開港50周年を記念したラッピング機を就航しております。

運航面においては、週末(金曜日および日曜日)を中心として「札幌—東京」線に深夜便を運航し、お客様の利便性向上を図りました。また9月には、台風により被災された地域への交通アクセスの充実を図るため、「札幌—釧路」線の臨時便を運航しました。

【運航実績】	前中間会計期間	当中間会計期間	増 減	増減率(%)
運航便数 (便)	12,046	13,192	+1,146	+9.5
就航率 (%)	99.1	99.0	△0.1Pt	—
定時出発率 (%)	93.6	88.6	△5.0Pt	—

【輸送実績】	前中間会計期間	当中間会計期間	増 減	増減率(%)
提供座席数 (千席)	1,428	1,521	+92	+6.5
旅客数 (人)	951,182	1,055,469	+104,287	+11.0
旅客キロ (千人キロ)	879,462	988,517	+109,055	+12.4
座席キロ (千席キロ)	1,324,446	1,431,482	+107,035	+8.1

(注)輸送実績には、全日本空輸株式会社への座席販売分を含めておりません。

【路線別座席利用率】	前中間会計期間	当中間会計期間	備 考
「札幌—東京」線	66.8%	71.2%	
「旭川—東京」線	71.6%	70.7%	
「女満別—東京」線	68.7%	65.4%	
「釧路—東京」線	65.8%	70.9%	
「帯広—東京」線	59.3%	66.1%	
「函館—東京」線	62.5%	64.7%	
「札幌—仙台」線	75.0%	77.1%	
「札幌—名古屋」線	—	66.3%	平成27年10月開設
「札幌—神戸」線	47.7%	51.1%	
「札幌—岡山」線	62.5%	63.3%	
「札幌—広島」線	—	56.9%	平成27年10月開設
「函館—名古屋」線	—	62.7%	平成27年10月開設
路線の平均	66.4%	69.1%	

(注)路線別座席利用率には、全日本空輸株式会社への座席販売分を含めておりません。

(3) 財政状態

【財政状態】	前事業年度 平成28年3月31日	当中間会計期間 平成28年9月30日	増減
総資産 (百万円)	47,690	46,712	△977
純資産 (百万円)	9,999	12,462	+2,463
1株当たり純資産 (円)	215,040.90	268,010.37	+52,969.47
自己資本比率 (%)	21.0	26.7	+5.7 Pt

2. 平成 29 年 3 月期の見通し

今後のわが国経済は、海外の景気減速や不確実性の高まり等による影響が懸念されるものの、雇用環境の改善傾向が続いているほか企業収益も引き続き高い水準にあり、景気は緩やかに持ち直していくことが期待されています。また、北海道経済も、引き続き、住宅投資、公共投資に持ち直しの動きがみられ、外国人観光客の増加等により観光関連業種が好調に推移していることから、緩やかな改善が見込まれています。一方、当社を取り巻く環境は、原油価格や為替相場の動向に注意を要するとともに、国内航空各社との競争が一層激化することが予想されます。

このような中、当社においては、動きの速い外部環境の変化に適切に対応することが重要であると認識した上で、「2015～2018 年度中期経営戦略」を着実に実行し、「北海道の翼」として次の飛躍や持続的な成長に繋げてまいります。

当社は 11 月 14 日、設立 20 周年を迎えました。今後も「北海道」へのこだわりを深め、一層お客様にご満足いただける独自サービスを提供することで、他社との差別化を図り収入の確保に努めてまいります。

なお、5 月 30 日に発表した平成 29 年 3 月期の業績見通しの変更は行いません。

【平成 29 年 3 月期業績見通し】	前期実績 (平成 28 年 3 月期)	予想	増減
営業収入 (百万円)	47,334	49,200	+1,865
営業利益 (百万円)	1,905	1,200	△705
営業利益率 (%)	4.0	2.4	△1.6 Pt
経常利益 (百万円)	1,340	400	△940
当期純利益 (百万円)	839	200	△639

以上

(別添)

平成 29 年 3 月期 中間決算短信 (非連結)

平成 28 年 11 月 28 日

会 社 名 株式会社 AIRDO
代 表 者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷 寧久
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 企画部担当 (氏名) 浦澤 英史 TEL (011) 252-5533
半期報告書提出予定日 平成 28 年 12 月 22 日

(百万円未満切捨て)

1. 平成 28 年 9 月中間期の業績 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(1) 経営成績 (%表示は、対前年中間期増減率)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		中 間 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28 年 9 月中間期	26,440	7.6	3,285	13.6	2,859	7.8	1,913	0.3
27 年 9 月中間期	24,577	△5.9	2,891	△8.0	2,652	△8.7	1,907	11.4

	1 株 当 たり 中 間 純 利 益	潜在株式調整後 1 株当たり 中 間 純 利 益
	円 銭	円 銭
28 年 9 月中間期	41,144.78	—
27 年 9 月中間期	41,020.91	—

(2) 財政状態

	総 資 産	純 資 産	自 己 資 本 比 率	1 株 当 たり 純 資 産
	百万円	百万円	%	円 銭
28 年 9 月中間期	46,712	12,462	26.7	268,010.37
28 年 3 月期	47,690	9,999	21.0	215,040.90

(参考) 自己資本 28 年 9 月中間期 12,462 百万円 28 年 3 月期 9,999 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28 年 3 月期	—	—	—	3,000.00	3,000.00
29 年 3 月期	—	—	—	—	—
29 年 3 月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : —

3. 平成 29 年 3 月期の業績予想 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日) (%表示は、対前期増減率)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通 期	49,200	3.9	1,200	△37.0	400	△70.2	200	△76.2	4,300.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年9月中間期	46,501 株	28年3月期	46,501 株
② 期末自己株式数	28年9月中間期	— 株	28年3月期	— 株
③ 期中平均株式数	28年9月中間期	46,501 株	28年3月期	46,501 株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

貸借対照表

(平成 28 年 9 月 30 日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	17,680	流動負債	9,163
現金及び預金	10,260	営業未払金	3,193
営業未収入金	1,044	1年内返済予定の長期借入金	243
有価証券	4,406	リース債務	1,967
たな卸資産	225	未払金	1,502
前払費用	315	未払法人税等	1,007
その他	1,426	その他	1,249
固定資産	29,032	固定負債	25,086
有形固定資産	24,029	長期借入金	131
航空機	2,559	リース債務	20,254
リース資産	21,126	退職給付引当金	539
その他	343	航空機材整備引当金	4,161
無形固定資産	214	負債合計	34,250
投資その他の資産	4,787	純資産の部	
投資有価証券	711	株主資本	13,026
繰延税金資産	1,267	資本金	2,325
その他	2,809	資本剰余金	947
		その他資本剰余金	947
		利益剰余金	9,753
		利益準備金	151
		その他利益剰余金	9,602
		繰越利益剰余金	9,602
		評価・換算差額等	△564
		繰延ヘッジ損益	△564
		純資産合計	12,462
資産合計	46,712	負債純資産合計	46,712

損益計算書

(自平成 28 年 4 月 1 日 至平成 28 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営業収入		26,440
事業費		21,181
営業総利益		5,258
販売費及び一般管理費		1,972
営業利益		3,285
営業外収益		
受取利息	13	
有価証券利息	5	
受取手数料	11	
為替差益	7	
その他	5	43
営業外費用		
支払利息	467	
その他	2	469
経常利益		2,859
税引前中間純利益		2,859
法人税、住民税及び事業税	923	
法人税等調整額	23	946
中間純利益		1,913